



INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT

19

第19期 事業報告書

2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード 証券コード 3392

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解ご支援の賜物と重ねて御礼を申し上げます。

当社グループの属する食品関連業界におきましては、引き続き新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な中、ウクライナ情勢や為替の影響等による原材料価格の上昇も懸念されることから、予断を許さない経営環境が続くものと予想されます。

このような外部環境の中、当社グループにおきましては、新規・深耕の営業活動を積極的に推進し、コロナ禍に強い外食業態や、既存外食以外の中食、小売・量販、給食等への拡販に注力、新中期経営計画「Transformation2024」で掲げた「事業ポートフォリオ

の革新」につきましては計画を上回るスピードで進捗させております。また、仕入・在庫管理の厳格化、物流の効率化等強固な社内体制の整備を着実に進めております。

このような活動の結果、当連結会計年度における売上高は39,788百万円(前期比25.4%増)と前年を上回る水準まで回復いたしました。一方、利益につきましては、営業損失が397百万円(前期は1,467百万円の営業損失)、経常損失が242百万円(前期は1,031百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純損失は746百万円(前期は953百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)と黒字回復までには至りませんでした。しかしながら、半期ベースでの経常利益では、上期(2021年4月～9月)は経常損失611百万円であったのに対し、下期(2021年10月～2022年3月)は経常利益368百万円と黒字を確保しており、社内体制整備の効果が顕在化しつつある状況です。

また、新規事業のBtoCビジネスにおきましては、デリカフーズ長崎株式会社の宅配業者向けミールキット製造販売事業に加えて、関連会社であった株式会社青果日和研究所を100%出資の連結子会社化、昨年設立した楽彩株式会社におきましては、一般消費者向けミールキット販売事業の立ち上げを周到に準備し、今後の事業拡大に向けた体制整備も進めております。なお、東証市場再編への対応につきましては、新市場区分のコンセプト・基準と当社の事業や成長戦略等を勘案し、まずは国内での青果物流通インフラの構築が最優先課題と認識し、スタンダード市場を選択いたしました。

今後もグループ一丸となり、さらなる企業価値向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長

大崎 善保

業績の概況

売上高、利益ともに前期比増。

下期は黒字を確保したものの

通期での黒字回復には至りませんでした。

当連結会計年度の業績

売上高	39,788百万円 (前期比25.4%増)
営業損失(△)	△397百万円
経常損失(△)	△242百万円
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△746百万円
1株当たり当期純損失(△)	△50.57円
総資産利益率(ROA)	△3.28%
株主資本利益率(ROE)	△11.43%

取締役のご紹介

取締役



こばやしけんじ
小林 憲司

デリカフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役



なかやま こんの
仲山 紺之

社外取締役



おざき ひろひこ
尾崎 弘之

社外取締役



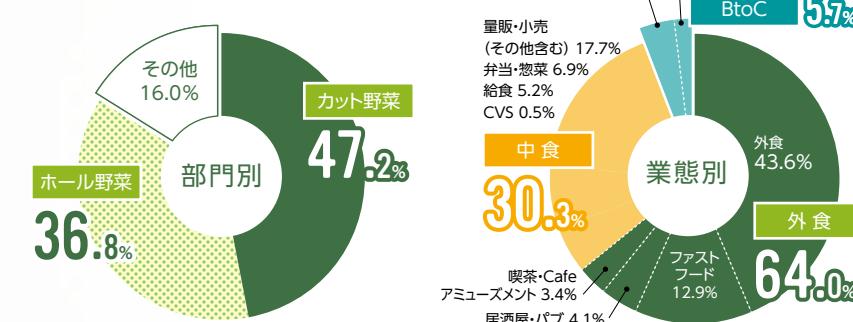
しばた みすず
柴田 美鈴

取締役会長



たちもと いさたけ
館本 勲武

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。また、第三の基軸商品として展開している真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。

外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、全体の6割以上が外食業界に向けた売上となっております。

※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。

Delica's 人材施策 2022

デリカフーズグループは、社員一人ひとりが「農業と健康」への貢献を志す者として、社歴に関係なく活躍できる企業風土となるよう各種施策を講じてまいりました。大きく変化しつづける世の中で、グループが持続的に発展していくために、仕事を通じて個人が成長を実感し、より多様な人材が力を発揮できるよう、育成設計のアップデートを図っています。

多様なキャリア形成をサポートする人材育成

デリカフーズグループでは、事業拡大に伴う拠点の増加により新卒を中心とした積極的な採用活動を進めてまいりました。入社後は、グループ合同研修や日々のOJTにより社員のスキル・経験の向上を図ってまいりましたが、コロナ禍での働き方に対する意識の変化、コミュニケーション機会の減少により個人と会社の繋がりに変化が起これ、個人の悩みや目標の把握が難しくなっていま

す。そこでこの度、育成体系から見直しを行い、多様なキャリア形成をサポートできる教育制度を構築いたしました。これまで行っていた研修に加え、オンラインを活用した全国共通部署別研修や資産形成セミナー、健康に関する勉強会など、会社に属するすべての人が働きやすい職場を構築するため、社員一人ひとりに目を向けた制度づくりを行ってまいります。

- Before**
- ・ビジネス研修
 - ・役員研修
 - ・合宿研修
 - ・各現場研修
 - ・フォローアップ研修 (OJT)

会社の実務に沿った研修を各々で行う

- After**
- ・スキルアップ研修
 - ・全国共通の部署別研修
 - ・働き方サポート研修
 - ・他部署研修
 - ・キャリアアップ研修

会社だけでなく個人の幸せをつくる体系的な研修を構築

CHECK 01 | 52名の新たな仲間が入社

2022年度は、52名の新入社員を採用いたしました。グループの採用は、「農業と健康を繋ぐ創造企業」である当社で、これから共に成長できる人を選考しております。また、新入社員52人中4名は外国籍の社員です。全国の現場で働く外国籍の方々がより働きやすく、誰にとっても風通しの良い職場を実現するため、会社とのかけ橋としても活躍を期待しています。



個人と会社の「和」を意識した育成設計

新たな教育制度では「個人」としての幸福の実現と、「会社」の業績や成長に貢献する、両面を実現できる人材の育成を行います。社会人としてのビジネスマナーや一般常識を身に付けるため

のカリキュラム、お金・健康など人生を豊かにするための研修、デリカフーズの風土や社史の共有、よりキャリアアップするための専門知識の教育など、会社と個人の和を意識した育成設計です。

【育成設計】



CHECK 02 | 人材育成と多様性の確保

多様な価値観を持った人材の活躍が、持続可能な成長に欠かせない要件であると認識し、人材育成と強化に努めてまいります。

■ 中途採用比率

適切な人材を確保すべく、中途採用活動を実施しています。また、中途採用社員の、積極的な管理職登用も推進しております。

管理職比率※



■ 女性管理職比率

2021年6月時点で女性の管理職は13名で、管理職比率は18.8%です。今後も能力ある女性を積極的に登用し、女性管理職比率の向上を目指してまいります。

管理職比率※



※2021年6月時点

より目的に特化した取り組みを行うため、部門の見直しを実施

この度デリカフーズグループでは、人事やキャリア支援、デジタル化、外国籍社員へのサポートなどにおいて、それぞれの知見を深め、より効果的な取り組みを行うことを目的に、部門の見直し

を実施いたしました。DX推進室、キャリア推進室、国際人財室が新設され、経営企画室もサポートしながら今後のグループの発展に向けて歩んでまいります。

New

【DX推進室】

デリカフーズの視点で最適な業務、運営改善

<業務内容>

- ・デリカフーズグループのITシステムの構築に関する業務
- ・社内の新たなIT資産のプランニング 導入から運用

Message / DX推進室 室長 杉浦 健太

DXの目的は「データとデジタル技術の活用」ではなく、それを使い「業務プロセス自体や企業文化自体の変革」をすることです。社員を巻き込み、全社的な業務効率化を成し遂げてまいります。



【経営企画室】

当社すべての従業員に人事面の充実、サポート

<業務内容>

- ・人事採用に関する業務
- ・中長期経営計画に関する業務
- ・従業員の移動、配置に関する業務
- ・人事情報の運用、管理

Message / 経営企画室 室長 兼 国際人財室 室長 神永 恵也

私たちの人事方針は、I give a chance(チャンスは平等に) up to you (それはあなた次第) です。この方針のもと、幅広い年齢層の採用や、個の幸せを考えた研修制度づくり、多様な人材の確保に取り組みます。



New

【キャリア推進室】

デリカフーズの新たな人財戦略を推進

<業務内容>

- ・人材開発の基本計画の策定
- ・教育研修、育成に関する業務
- ・経営理念、行動規範などの共通認識の展開

Message / キャリア推進室 リーダー 黒田 素平

「個人の幸福と会社の繁栄を繋ぐ人材育成環境の構築」をミッションとして掲げ、各個人が成長を実感しながら働き、それが会社の成長に寄与する環境作りをしていきたいと考えています。



New

【国際人財室】

外国籍従業員、技能実習生への窓口、全国対応の強化

<業務内容>

- ・外国籍従業員に関する管理業務
- ・外国籍従業員の人事、相談に關する業務
- ・技能実習生に関する業務

Message / 国際人財室 担当 ズェン (左)、スエン (右)

デリカフーズグループでは世界27か国の従業員が働いており、全従業員の3割が外国人です。今後、多種多様な外国人財が長期にわたり活躍できるよう、全力でサポートしてまいります。



「女性活躍推進プロジェクト」を発足し社内改革を実施

全国各地の拠点で多くの女性社員が働くデリカフーズグループ。職場環境や制度をより充実させ、女性がこれまで以上に活躍できる場をつくるため、2021年の11月より女性活躍推進プロジェクトが発足しました。女性目線でのさまざまな意見をもとに、働きやすく、より成果が出しやすい環境づくりを進めております。



2021年～の活動内容

2021年10月

「女性活躍推進」について社内アンケートを実施

「働き方」への意識を調査するため、全国の女性社員を対象にアンケートを実施いたしました。これにより、所属や年齢ごとの考え方の共通点や相違点が明確になりました。

2021年11月

女性活躍推進プロジェクトが発足

アンケートをもとに、さらに議論を深めるため、女性役員2名と年齢・経歴・職種の異なる女性社員11名で座談会を実施。「女性活躍推進プロジェクト」として動き始めました。

2021年12月～

月1回のミーティング開催が決定

座談会で議論できなかった内容や、アンケートで集めた意見について定期的に議論し、女性視点での改善案を提案するため、ミーティングを定例化しました。

2022年4月

プロジェクトで挙げた意見を役員会に提出

定例のミーティングで挙げた意見は役員会での審議を経て制度化につなげます。プロジェクト発足以降、半休制度や、育児時短制度の拡充などが採用されました。

・プロジェクト参加者コメント・

このような機会でないといけない子育てや女性特有の体調の話など、色々な方の考えを知ることができ、とても勉強になりました。皆さんの「会社を良くしたい」という気持ちが嬉しかったです。 入社9年目

女性目線で会社を良くしようとする活動に、希望を感じました。こういった活動は全国に広げていきたいです。 入社6年目

プロジェクトに参加して、「どうしたら自分が会社に貢献できるか」と前向きな考えに変わってきました。 入社7年目

プロジェクトでは「女性だけでなく、誰もが働きやすい職場にしたい」という意見が非常に多く出ました。役員として、従業員の生の声を聴ける場はとてもありがたいです。 役員

・今後の展開・

女性目線での改革で、多様な働き方を実現

参加した社員からは、「このような活動をもっと全国に展開すべき」との声が挙がっております。これまでは東京に勤務するメンバーが中心でしたが、今後は全国各地へ活動の場を広げ、女性のさらなる活躍を推進してまいります。



楽彩 Rakusai Start!

いよいよ本格始動!

昨年8月に設立した楽彩株式会社は、お客様においしく安心安全なミールキットをお届けするべく新メニューの開発やさまざまな場所でのテスト販売などの準備を重ねてまいりました。そして今春、正式にサービスを開始し本格始動いたしました。



食卓を笑顔にできるような事業へ

「楽しく」「楽しく」「食卓を彩る」をコンセプトにミールキット販売事業を担う楽彩株式会社は、「やさいのチカラで食卓に笑顔を」をミッションとして掲げています。新鮮でおいしい野菜は人々に笑顔をもたらす、適度な手間は料理の楽しさを演出します。食卓の笑顔の役に立ちたい。それが楽彩の想いです。また、多くのお客様に楽彩をご利用いただくため、商品開発からお渡しまで、便利で正確・最速のインフラを構築し、ストレスなく利用できる環境を整えます。この新事業で、一般消費者の皆様に新たな食のライフスタイルを提供してまいります。

楽彩 6つのこだわり 楽彩商品のおいしさと安全性の秘密をご紹介します。

新鮮な野菜をお届けする仕組み

野菜ごとの温度管理を徹底し、高い鮮度でお客様にお届けします。また、野菜のおいしさを引き出すカット技術で素材本来の味をご家庭でお楽しみいただけます。

全国1000軒にわたる農家とのコミュニティ

全国各地の1000軒以上の農家から野菜を仕入れています。野菜の種類は約800種。同じ野菜でも農家ごとに栽培方法が異なるため、時期に適した一番おいしいものをお届けします。

365日新鮮な野菜の受け取りが可能

提携先企業のお好きな店舗での商品ピックアップを実現し、朝に注文したミールキットがその日の夜の食卓に並び、お客様のライフスタイルに合わせた仕組みを提供します。

毎月新商品を追加、常時20種類のメニュー

「野菜たっぷりサラダ」「具だくさんスープ」「海外料理」「アラカルト」でメニューを分類しています。今後は毎月10種類の新メニューを発売し、常時20品を販売予定です。

自社開発システムを備える自社工場

楽彩のすべての商品は、自社工場で製造されています。国際認証ISO22000を取得した最新鋭の設備と独自のシステムを導入し、当日製造の安全安心で新鮮な商品を提供します。

フードロス問題にも貢献

楽彩は毎朝注文を受けた分だけ自社工場で製造し、必要な量のみを提供するため、食材を無駄にすることなくフードロス問題に貢献します。

下ごしらえ不要!選べる野菜たっぷりミールキット

楽彩が提供するミールキットは、食材の洗浄やカットなど時間のかかる調理の下ごしらえを済ませてあるため、混ぜ合わせる、炒めるなどの工程のみで2分~20分で簡単に調理ができます。「料理は好きだけど下ごしらえは嫌い」「買い物は時間がかかってもらいたくない」といったニーズに応え、お気軽にWebサイト予約でご利用可能です。また、今後は外食企業様とのコラボも実施し、提供ラインナップを拡充してまいります。



ピックアップショッピング 朝ご注文いただいた商品を、その日にお届け!



メニュー例

きのこベーコンソテーの温サラダ、海老と彩り野菜のアヒージョ風、パプリカとふくらむだけのグリーンカレー、ソイッとクリーミーほくほく野菜の麦みそポタージュ、さつまいもキャラメリゼ...など20種



受け取り可能店舗を続々と拡大

楽彩は、9時までにWebサイトから予約すると、17時以降に店舗で受け取りが可能です。受け取り店舗は、株式会社JR東日本クロスステーション様が運営するコンビニエンスストア「NewDays」。2022年6月現在、約30店舗での受け取りが可能で、9月末までに計100店舗を目標に拡大してまいります。また、株式会社ライフコーポレーション様が運営するスーパーマーケット「ライフ」では、店頭でのミールキット販売を行っています。さらに、株式会社Recamp様と協力し、キャンプ場での受け取りも実現。ECサイトからダッチオープンとミールキットの特別セットが申し込みます。



北千住マルイにてポップアップストアを出店!

2022年5月1日~6月2日の間、北千住マルイ2階にて期間限定のポップアップストアを出店いたしました。ミールキットを日替わりで約20種類以上販売し、たくさんのお客様がご来店くださいました。今後も、ブランド認知向上のためさまざまな施策を行ってまいります。

楽彩Webサイト



メニューやお知らせなど、こちらからご覧ください!

デリカフーズ 新役員のご紹介

この度、デリカフーズ株式会社の役員として2名が就任いたしました。今後も、新役員を中心にグループの連携を強化し、「農」と「健康」を繋ぐ創造企業として、さらなる成長を目指してまいります。

内藤 裕敬 Hiroataka Naito

デリカフーズ株式会社 取締役
営業統括本部長



部門の責任者として、営業の最前線で
お客様とデリカフーズグループの発展を繋ぐ

新型コロナウイルス感染症の流行で、食を取り巻く環境は変化し、当社の営業戦略も大幅な変革が必要となりました。コロナ禍を経験し改めて感じたことは、当社の変革へのスピードです。ポートフォリオの変革、新規事業への挑戦、社内制度の見直しなど、ウィズコロナを見据えた方針に対し、迅速に変化対応する変革力とそれを実現する人財力は当社の文化と財産だと思っています。今後はデリカフーズ株式会社の取締役として、また営業部門の責任者として、業界の発展・お客様の発展・デリカフーズグループの発展のために専心努力してまいります。

Profile

2011年、デリカフーズ株式会社入社。2017年、同社の事業統括本部エリア営業部営業本部長に就任。2018年に事業統括本部執行役員エリア営業部営業本部長に就任。

青木 聡之 Toshiyuki Aoki

デリカフーズ株式会社 執行役員
神奈川事業所長



さまざまな事業所での経験を活かし
シナジーが発揮できる強固な体制へ

私自身アルバイトから入社し、さまざまな経験を経てここまで大きな責任のある職務に就かせていただくことができたことと実感しています。事業所を異動するたびに新たなメンバーと共に仕事をし、多くの刺激を受けました。会社も大きく成長し人員も増えていくなかで、今後多くのメンバーが成長し、社業を共に盛り上げてくれるよう、指導していく所存です。また、これまで自身が関東3事業所に所属してきた経験を活かし、事業所間でより強固な体制づくりをしてまいりたいと考えております。今後も青果物業界とグループの発展により一層尽力してまいります。

Profile

2001年、デリカフーズ株式会社入社。製造部でのアルバイトを経て、正社員として入社。青果バイヤーとして2年間出向したのち、東京事業出荷センター長や仕入部長を歴任。西東京事業所の事業所長を経験し、2021年に神奈川事業所の事業所長に就任。

青果日和

株式会社青果日和研究所を
連結子会社化



2022年3月31日、デリカフーズホールディングス株式会社は株式会社青果日和研究所の全株式を取得し、連結子会社化いたしました。同社は、2020年の設立より主に「青果日和」ブランドでの通信販売事業を行ってまいりました。今後は「企画・商品開発」、「通販事業の展開」、「他業種とのコラボレーション」など青果物に関連した事業を一層強化し、当社グループのBtoC事業を加速させていく予定です。

Check! 青果ボックスミニセット発売開始!

通販事業においては5月27日より、主な商品である厳選15種類の「青果ボックス」に加え、より多くの方に便利にお使いいただけるよう普段使いしやすい8種類の「青果ボックスミニセット」の販売を開始いたしました。

こちらのQRコードから
ご覧ください!



デリカフーズHD

スタンダード市場へ
移行いたしました



東京証券取引所・新市場区分において、2022年4月4日より「スタンダード市場」へ移行いたしました。新市場区分のコンセプト・基準と、当社の事業や成長戦略などを勘案し、日本での青果物流通インフラの構築を目指し、企業価値の向上・持続的な株主価値向上を推し進めていくためには総合的にスタンダード市場が最適と判断いたしました。今後も「農」と「健康」を繋ぐ創造企業として日本農業の発展と人々の健康に貢献してまいります。

Point! 新市場区分の目的

各市場区分のコンセプトを明確にすることと、上場企業の持続的な企業価値向上の動機付けを行うことを目的に、市場区分の見直しが行われました。

プライム市場	スタンダード市場	グロース市場
グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向け	公開された市場における投資対象として十分な流動性とガバナンス水準を備えた企業向け	高い可能性を有する企業向け

連結貸借対照表(要旨)

単位：千円

資産の部	第18期	第19期
	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
流動資産①		
現金及び預金	4,641,473	4,536,684
売掛金	3,639,908	4,351,806
商品及び製品	143,311	212,017
仕掛品	8,111	7,749
原材料及び貯蔵品	97,921	135,271
その他	375,096	325,559
貸倒引当金	△2,716	△2,626
流動資産合計	8,903,106	9,566,461
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,285,668	5,965,085
土地	3,759,269	3,914,760
その他(純額)	2,365,564	2,300,544
有形固定資産合計	12,410,502	12,180,391
無形固定資産		
その他	73,724	101,065
無形固定資産合計	73,724	101,065
投資その他の資産		
投資有価証券	568,962	500,138
繰延税金資産	90,078	23,928
その他	590,701	577,228
貸倒引当金	△4,179	△3,375
投資その他の資産合計	1,245,563	1,097,919
固定資産合計	13,729,790	13,379,376
資産合計	22,632,897	22,945,838

単位：千円

負債の部	第18期	第19期
	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
流動負債②		
買掛金	1,856,596	2,269,137
短期借入金	2,200,000	2,330,000
1年内返済予定の長期借入金	1,199,140	1,408,336
未払法人税等	26,183	30,227
未払金	1,327,674	1,596,820
その他	348,215	334,107
流動負債合計	6,957,811	7,968,628
固定負債		
長期借入金	7,604,300	7,724,304
その他	954,000	1,016,034
固定負債合計	8,558,300	8,740,338
負債合計	15,516,111	16,708,967
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,377,113	1,377,113
資本剰余金	2,171,446	2,171,446
利益剰余金	3,420,932	2,595,085
自己株式	△24,808	△24,808
株主資本合計	6,944,684	6,118,837
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	160,630	122,255
退職給付に係る調整累計額	11,470	△4,221
その他の包括利益累計額合計	172,101	118,033
純資産合計③	7,116,785	6,236,870
負債純資産合計	22,632,897	22,945,838

	第18期	第19期
1株当たり当期純損失(Δ)(円)	△64.59	△50.57
1株当たり純資産(円)	482.06	422.46
自己資本(千円)	7,116,785	6,236,870
自己資本比率(%)	31.4	27.2

① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ7.5%増加し、9,566百万円となりました。これは、主として、売掛金が711百万円増加した一方、現金及び預金が104百万円減少したことなどによりです。

連結損益計算書(要旨)

単位：千円

	第18期	第19期
	前連結会計年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	当連結会計年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)
売上高	31,725,670	39,788,128
売上原価	25,501,686	30,746,225
売上総利益	6,223,984	9,041,903
販売費及び一般管理費	7,691,314	9,439,028
営業損失(Δ)	△1,467,329	△397,125
営業外収益	482,044	217,079
営業外費用	46,491	62,670
経常損失(Δ)	△1,031,777	△242,716
特別利益	133,399	169,895
特別損失	40,222	405,246
税金等調整前当期純損失(Δ)	△938,600	△478,067
法人税等合計	14,690	268,475
親会社株主に帰属する当期純損失(Δ)	△953,290	△746,543

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：千円

	第18期	第19期
	前連結会計年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	当連結会計年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	72,481	857,087
投資活動によるキャッシュ・フロー	△830,924	△1,102,349
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,142,131	140,471
現金及び現金同等物の増減額(Δは減少)	383,688	△104,791
現金及び現金同等物の期首残高	3,930,504	4,314,192
現金及び現金同等物の期末残高	4,314,192	4,209,401

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自2021年4月1日 至2022年3月31日)

単位：千円

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
当期首残高	1,377,113	2,171,446	3,420,932	△24,808	6,944,684	160,630	11,470	172,101	7,116,785
当期変動額									
剰余金の配当			△73,816		△73,816				△73,816
親会社株主に帰属する 当期純損失(Δ)			△746,543		△746,543				△746,543
連結範囲の変動			△5,487		△5,487				△5,487
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△38,375	△15,692	△54,067	△54,067
当期変動額合計	—	—	△825,847	—	△825,847	△38,375	△15,692	△54,067	△879,914
当期末残高	1,377,113	2,171,446	2,595,085	△24,808	6,118,837	122,255	△4,221	118,033	6,236,870

② 流動負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べ14.5%増加し、7,968百万円となりました。これは、主として、買掛金が412百万円、未払金が269百万円、一年以内長期借入金が209百万円増加したことなどによりです。

③ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ12.4%減少し、6,236百万円となりました。これは、主として、利益剰余金が825百万円減少したことなどによりです。

※当社は、2019年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び、1株当たり純資産を算定しております。

デリカフーズ

全国から調達した野菜を加工、鮮度を保って国内約28,000店舗にお届け。高いカット技術・パッケージ技術を持つ加工工場は、食品安全にも細心の注意を払っています。

楽彩

「楽しく」「楽しく」「食卓を彩る」をコンセプトにミールキット販売事業を担います。朝に注文すると当日の夜に食べられる野菜たっぷりミールキットで、日々の食事を彩ります。

デザイナーフーズ

「選食力」=「栄養力」=「健康力」と位置づけ、ニーズに応じて科学的根拠のあるメニューの考案から、販売戦略セミナー・講演など、食をトータルでプロデュースします。

メディカル 青果物研究所

長年の研究による野菜のデータをもとに、食品全般の受託分析を行い、食ビジネスにおける野菜の新しい魅力を発掘し、情報を発信しています。

エフェス ロジスティクス

グループのコールドチェーンを実現するため、全国に広がるチルド配送網を活かし、毎日新鮮な野菜をお届けします。

青果日和

「青果日和」ブランドで、青果専門の宅配サービスを行っています。国内最大級の流通網で産地とお客様を最短で結びながら、プロの目が選んだ厳選青果をお届けします。

DELICA FOODS HOLDINGS

デリカフーズグループは「業務用の八百屋」としてのノウハウを活かし、安心・安全な野菜を日本全国にお届けします。



株式会社 野菜くらぶ @群馬県

デリカフーズに野菜を納入していただいている、生産者のみなさんをご紹介します。

当社との出会い

2005年に、デリカフーズの大阪事業所へレタスの出荷を開始し、以降各地の拠点到野菜を納入しています。デリカフーズから毎年課題をフィードバックすることで品質が改善され、お互いが成長できる取り組みに繋がっています。

複数の産地で栽培するため 1年間を通した安定供給が可能

1992年に創業した株式会社 野菜くらぶは、群馬県利根郡に本社を置きながらも、青森・群馬・静岡・長野・島根と日本各地で、レタス・キャベツ・トマト・ミニトマト・ほうれん草・小松菜などの栽培を行っています。夏の適地、冬の適地、春秋の適地と産地を分散させて農業を行うことで天候のリスクを回避し、お客様へ安定的に農産物を届けることができます。

野菜作りの基本方針として、農薬不使用の野菜の栽培を目指しています。どうしても農薬を使用しなければならない場合は、JAS法に定められた有機栽培で使用できる農薬や安全性の高い農薬を使用し、有機だからといって品質をおろそかにせず、バランスの取れた栽培を行っています。そのように作った商品に対して、お客様から意見や感謝の言葉をいただいたときは、やりがいを感じます。待っているお客様がいることで、より栽培管理にしっかり向き合うことができ、技術向上にも繋がっています。

これからは、未来のことを考えた農業生産を目指します。化石燃料の使用を減らし地球環境への貢献、ミニトマトのパック詰め機械の開発による作業省力化、人材育成システム（ファームシステム）の導入など、さまざまなことに取り組んでいます。

今後も、既存概念にとらわれず、野菜を使って付加価値の高い食品の開発などを行い、多くの人に必要とされ期待される商品を提供できる会社を目指し、励んでいきます。



会社概要

2022年3月31日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成 15 年 4 月 1 日		
創業	昭和 54 年 10 月 6 日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号		
資本金	1,377,113 千円		
従業員数 (連結)	651 名 (他、平均臨時雇用者数 1,838 名)		

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役	小林 憲司	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	仲山 紺之	常勤監査役	野村 五郎
取締役会長	舘本 勲武	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 仰星監査法人

株式状況

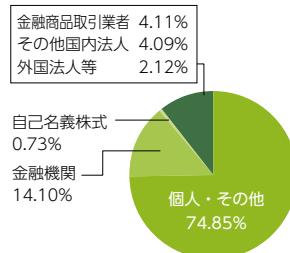
2022年3月31日現在

発行済株式総数 14,872,000 株
株主総数 10,769 名

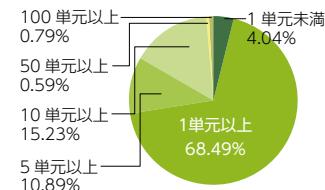
大株主

舘本 篤志	2,038,900 株
舘本 勲武	1,614,600 株
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	1,172,900 株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	612,700 株
大崎 善保	385,900 株
SMBC日興証券(株)	369,700 株
エア・ウォーター(株)	219,400 株
野村 五郎	189,800 株
丹羽 真清	185,500 株
デリカフーズグループ 従業員持株会	162,900 株

[株主分布状況]



[所有株式数別分布状況]



株主メモ

事業年度	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
期末配当金受領株主確定日	3 月 31 日
中間配当金受領株主確定日	9 月 30 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL.0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL https://www.delica.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **デリカフーズホールディングス株式会社**
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は
ホームページを
ご覧ください。

デリカフーズ  <https://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



UD FONT

本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。